

## 新法人の理事長 現サイクル機構理事長 殿塚氏に

7月22日、新法人の理事長となるべき人が指名されました。現在の核燃料サイクル開発機構理事長の殿塚氏です。氏はもと中部電力株式会社常務取締役です。

独立行政法人では、理事長に大きな権限と責任が与えられていますから、新法人の理事長がどのような人になるかが重要です。我々原研労組は、以前から電力会社から理事長を迎えることがないように求めてきましたが、残念な結果になりました。新法人においても、原子力安全規制への補助的な役割や、原子力関連事故時の試験など、現在の原子力研究所が果たしている役割を担うこととなります。その際、トップが電力会社の出身者ということで中立が維持できるでしょうか。また、周囲から中立性を疑われる恐れがあります。電力出身の理事長を選んだことにより日本で唯一の総合的な原子力研究開発機関である新法人の信頼が損なわれることはないでしょうか。

核燃料サイクル開発機構は原子力の実用化に近いとする技術の一部を扱うだけでした。新法人は総合的な原子力研究開発機関です。我々は、電力出身の理事長選出には反対ですが、難しいときにある原子力です。決まった以上は、殿塚氏には広い視野と高い見識を持って新法人の理事長を務めることを求めたいと考えます。

### 殿塚氏の略歴

昭和35年 3月 慶応義塾大学経済学部卒業

平成 7年 6月 中部電力株式会社常務取締役

平成 9年 6月 同社取締役(常務待遇)電気事業連合会専務理事

平成13年 6月 永楽自動車株式会社取締役社長 \*

平成15年 6月 核燃料サイクル開発機構副理事長

平成16年 1月 同機構 理事長

\* 永楽自動車は中部電力グループの企業です。

## 労組規約改正のための全員投票の発議について

### 労働組合名の変更、組織対象の変更

我々、日本原子力研究所労働組合は「日本原子力研究所」とそれに関連する事業体の労働者を組織するとして、活動してきました。しかし、核燃料サイクル開発機構との統合、独立行政法人化で、日本原子力研究所がなくなり、「独立行政法人・日本原子力研究開発機構」が誕生します。したがって、現在の規約で「日本原子力研究所」と記述しているところを、「日本原子力研究開発機構」とするのが妥当と考えます。また、同時に、組合の力がどこまで及ぶかはわかりませんが、我々の活動の範囲を新法人全体を視野に入れたものとしたいと考えます。それを対外的にも明らかにするために、組合の名称も「日本原子力研究開発機構労働組合」に改名したいと考えています。

法的には、組合の名称は労働者の職場の法人名に縛られることは全くありません。改名の提案は

法的な制約ではなく、新法人全体を活動対象とする意思を明らかにするためです。「日本原子力研究所労働組合」という名前は、我々自身長年親しみ、また諸活動で外部の方々にもなじまれている名前ですが、将来の活動のために思い切って改名することを提案します。

原研労組の規約では規約の改定は全員投票で過半数の賛成が必要です。9月2日に予定している定期大会では、規約改定を行うための全員投票の発議を議案として提案するつもりです。

規約改定の中身は、2法人が統合し法人名が「独立行政法人・日本原子力研究開発機構」となった時点で、

現規約で「日本原子力研究所」と記述しているところを、「日本原子力研究開発機構」とする。また、

組合名を「日本原子力研究開発機構労働組合」とする。

長年使われてきた名前を変える提案です、組合員の皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと思えます。ご意見を執行部にお寄せください。

なお、サイクル機構の労働組合は、新法人への移行にあたって、「日本原子力研究開発労働組合」と「機構」がない組合名にすることをすでに決めています。

## 9月2日に第89回中央大会を開催予定

執行委員会では、統合を目前に控え、組合員の意思を結集するために9月2日(金)に第89回定期大会を開催する準備を進めています。

大会では、これまで出された新法人の体制及び労働条件、とりわけ研究員技術員制度や現行協定の改廃の申し入れなどに対する取り組みや、新法人発足後の労働組合の名称変更のための全員投票の発議などが中心課題です。

大会及び規約改正の全員投票までの主なスケジュールを以下のように考えています。

8月10日(水) 中央委員会：議案の構成についての承認

8月11日(木) 大会公示

8月18日(水)、19日(木) 東海地区分会長会議

8月20日(金) ~ 一斉分会討議

9月2日(金) 第89回定期大会

9月6日(火) 全員投票の公示

9月19日(月) ~ 25日(金) 規約改正のための全員投票

### 第407回 中央委員会開催

日時：8月10日(水) 18:30より

場所：東海研究所 研究1棟 第5会議室

議題：報告事項

活動報告その他

審議事項

(1) 大会議案の構成

(2) 選挙管理委員の承認について

(3) 研究問題対策部書記局員の承認について

(4) その他

## 戦争をしない国の憲法9条を守ろう 7.30 九条の会・有明講演会

九条の会有明講演会に9500人

7月30日、有明テニスの森に約9500人の平和憲法を支持する人々が集まり講演会が行われました。

講演は九条の会の 三木 睦子(国連婦人会)、鶴見 俊輔(哲学者)、奥平 康弘(憲法研究者)、小田 実(作家)、大江 健三郎(作家)、井上ひさし(劇作家)の各氏が講演、その他北海道で講演中の澤地 久枝氏(作家)がビデオでメッセージを寄せました。

- - - 九条の会ニュースから - - - -

最初に講演した三木睦子さん(三木武夫記念館館長)は「九条が危ないと燃えたるような気持ちでやってきた」と切り出し、「みんなで戦争を拒否すれば、平和をもたらせられる」とよびかけました。

つづいて鶴見俊輔さん(哲学者)が、『もうろくの春』という本を出版したことを紹介し、「私は自分のもうろくを盾として戦争に反対しつづける」と宣言。

小田実さん(作家)は、かつて、中国の孫文が日本に対し軍事力による覇道をめざすのか、道義による王道をめざすのかと問いかけたことを紹介し、「世界の人びと、アジアの人びとがわれわれを信頼するのは平和憲法があるからで、このことを深く考えるべき時期にきた」と語りました。

奥平康弘さん(憲法研究者)は、国会の憲法調査会の論議に触れながら、9条1項を残すから平和主義は変わらないとの論議を批判し、「憲法9条1項は、戦力を保持しない2項と結びついて意味をもつので、2項欠いた1項は抜け殻」と指摘しました。

大江健三郎さん(作家)は「求めるなら助けは来る、しかし決して君の知らない方法で」という友人の詩の一部を紹介し、若い人たちが、自分たち古い世代の知らなかった形でこの国に変化をもたらすことへの期待を表明しました。

最後に井上ひさしさんが、敗戦時の男子の平均寿命が24歳だったことを紹介しつつ、「自分の運命は自分で決める、と頑張れば世界的な動きになって奇跡がおこるかもしれない。私もそうした奇跡に人生をかけた」と結びました。

なお、この日は帯広の講演会の先約があり欠席した澤地久枝さん(作家)がビデオをつうじ、「私たちは賢くなって勉強することを求められています。あきらめないでやっていきたい」とのメッセージを寄せました。

それぞれの持ち味に、気迫を込め、時にはユーモアをまじえながらの話に、会場はしばしば共感の拍手がおこり、爆笑でわきかえる場面もありました。

「九条の会」有明講演会に参加して

花島 進

会場内で1万人、その外で1万人を集めようと言う全労連の呼びかけでしたが、結局会場内だけになり、9500人と言うことで少し残念でしたが、涼しい屋内で、講演を直接聞けました。特殊法人労連で集合し会場へ入るのが遅れたため、三木氏の講演は聞けませんでした。その他の各氏の講演は短いながらそれぞれ良い話でした。9条があるにも関わらず、イラクに自衛隊を派遣してい

る現状、国会の中では改憲を考えている議員の方が多数である現状があります。それでも憲法9条を守ろうとする人たちがこれだけいて、理性的に日本国の将来を見つめていることに、安心のような気持ちを抱きました。

地域・職場・分野別の「九条の会」は3,026になったそうです。

=====

### 8月3日事務折衝報告

8月3日事務折衝が行われ、「出向に関わる労働条件の骨子」が示されました。内容は現行の出向とほぼ同じで、これまで、規定に明文化されていなかったものをはっきりさせたものだと説明です。先日新聞報道で、「宇宙研究開発機構(JAXA)の国の機関への出向者が現給保証されていることが問題ではないか」と指摘されることがあったので、研究所が現給保証を行わないといってくることを警戒していましたが、基本的に現状のままということ。現給保証の問題は国の機関が調査中で、文部科学省などは現給保証しなくても良いように原研からの出向者の格付けと上げるよう、人事院に要請しているようです。今回提示された骨子では、「出向によって給与が下がる場合、機構が不足を支給することができる」と記述しています。労組は「...できる」ではなく「...する」とせよと要求しました。原研からの出向の格付けがあがったとしても、研究手当分が補填されないこともありえます。多くの場合、職員が行きたくて出向するのではないのですから、現給を保証するのは当然です。

## JCO 臨界事故を忘れない、原子力事故を繰り返させない

### 2005年9・30茨城集会のお知らせ(再掲)

1999年9月30日のJCO臨界事故から6年目、今年の「9.30茨城集会」は下記の予定で行われます。

日時 : 10月2日(日)13:30~16:00  
場所 : 東海村 舟石川コミュニティーセンター(予定)  
講演 : 「低線量被ばくの影響を考える」 野口 邦和氏  
その他詳細は検討中

また、9月に行われる東海村長選挙にむけて、予定候補者が相次いで財政と雇用の安定的確保を理由に、新型原子炉誘致に言及しています。

「9.30茨城集会」実行委員会では、下記の予定で

新型原子炉についての学習会を開催します。

日時 : 8月6日(土)13:30~  
場所 : 中丸コミュニティーセンター  
講師 : 中村 敏夫氏 (茨城県原発を考える会会長)

\*\*\*\*\*

労組では、公務労組連絡会が行っている公務員の退職手当に関する要求署名に取り組んでいます。多数の署名をお願いします。「給与構造の見直し」による給与水準の引き下げが、退職手当の支給額に影響することがないようにする要求です。